

失敗も含めて予期せぬ発見があるのが この仕事の面白さ。

岡本 恭平

企画開発課 係長 / 新規加工開発



もっと生の声

Q & A

— 思い出に残っているエピソードはありますか？

アメリカの工場に3か月間研修に行った時、デニムをUSED加工した製品サンプルの完成度の高さに愕然としました。これをきっかけに、デニム加工概念が大きく変わり、新規の加工開発の原動力になったと思います。その経験を元に、日本の生産性の良さを取り入れながら、ヒゲ台の改良などを行い、今のサンプル作りに生かしています。

— 新しく取り組んでいることはありますか？

SDGsの観点からも注目されているサステナブルな加工法として、塩素系の脱色剤を使用せず、オゾンの酸化力により脱色を行う技術があります。その従来のオゾン脱色法から更に改良を重ね、自然な色落ちを再現したサンプル作りに取り組んでいます。

— 将来繊維業界に従事する人へのメッセージをください。

これが正解という答えがない産業でもあるので、常に好奇心を持ち、新しいことにチャレンジしましょう。答えがないが故に大変な面もありますが、今の自分からもう一步踏み出し乗り越えることで、ものづくりの新たな魅力に出会うことができますよ！

「元々は繊維業界に興味があったわけではなく、地元が好き、服が好きという漠然とした感じでした。入社以前より会長と面識があったことがきっかけとなり、とりあえずやってみようという気持ちで就職しました。」と話す岡本さん。ものづくりの奥深さに魅了され、気付けば今年で入社16年目。現在は、デニム加工や染色加工の新規の加工開発を担当しているそうです。これまで、加工開発をするに当たり基礎的な加工技術を覚えるために現場作業、製品サンプルの作成、またお客様の生の声を聞くため営業活動なども経験しました。「様々な加工技術を組み合わせ、多種多様なニーズに応えること、新しい加工方法を考え実現するまでの過程で失敗を含め予期せぬ発見ができることが、この仕事の面白さでもあり、やりがいでもありますね。」「普段の業務では、加工剤、機械の特性、コスト、市場の流行などを含めて考えながら新しいものを開発していかなければならないため、プレッシャーは感じていますが、豊和では、納得いくまでやりたいことにチャレンジさせてもらえるのでストレスはないですね。これからも新規の加工開発をしていく上で、世界初の加工法といえるものを常に考え、開発に取り組んでいきたいですね。」

今後は、USED加工が主流のデニム製品に対して、USED加工とは異なる切り口で製品を開発し流行を作っていく。新たな目標に向けて岡本さんの挑戦は続きます。

